

約半年間山に籠って開墾し、設計の仕事をしている息子に頼んで画いてもらった設計図を基に、人間牧場を3年ほどの歳月をかけ仕上げることができました。ウッドデッキを備えた水平線の家、ロケーション風呂、ツリーハウス、作業小屋、かまど小屋、ピザ窯などができていますが、人材育成のため宮本常一、二宮金次郎、ジョン万次郎、中江藤樹などの先人に学ぶ年輪塾と、子どもたちにふるさと教育を行う子ども体験塾を2本の柱に据えながら、年間約1000人ほどの来訪者に多くの学びを提供しています。10周年記念事業を終えてから既に7年が過ぎ去り、いよいよ20年目の佳境を迎えようとしています。私の後を継ぐべき息子と一緒に、人間牧場から少し離れた港の見える丘にクヌギの森を作る新たなプロジェクトもスタートして、想いの伝承は続いています。

～地域づくり・まちづくりのこれから～

10 世界の動きSDGs

2020年にニューヨークの国連本部で開催された持続可能な開発サミットにおいて、誰一人取り残さない(No one will be left)を理念とする「SDGs」が採択されました。「SDGs」は「Sustainable Development Goals」の頭文字をとった言葉で、持続可能な開発目標を意味します。もともとは第二次世界大戦後に勃発した「経済対策と環境対策の対立」がルーツですが、1972年にスウェーデンで開かれた国連人間環境会議での「人間環境宣言」の採択、1992年のリオデジャネイロでの「リオ宣言」採択で、世界全体で環境対策を目指す動きが活発化しました。そして2015年に入るとSDGsの前身となる「MDGs」が国連のサミットで採択されました。しかし先進国によってルールが決められていたことや、地域の偏りもあり、結果としてMDGsは満足な結果を出せず、そこで先進国と発展途上国の壁をなくし、2030年までの目標達成を目指すことで採択されたのがご存じ「SDGs」です。

世界を変えるための17の目標

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 全ての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくり
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

これらの目標の1～6はどちらかというと発展途上国が、7～11は先進国が、そして12～17は世界全体での取り組むべきテーマなのです。地域づくり・まちづくりもこれらの目標を取り入れなければなりません。

11 日本が抱える4つの重要課題

世界がグローバル化する中で日本の抱える課題は広範多岐に及んでいますが、当面する地域づくり・まちづくりの重要課題は大きく分けて、①100歳まで生きる超高齢化社会、②人口減少社会、③情報化社会、④自然災害多発社会という概ね4つのことが考えられます。こうした社会の大転換期がやってきているという認識と、SDGsを意識した対応がこれからの地域づくりやまちづくりにはいや応なしに求められています。そこで4つの重要課題ごとに取り組まなければならないことを拾い出してみました。

- ①100歳まで生きる超高齢化社会
 - ・100歳まで生きる生活設計
 - ・平均寿命と健康寿命